



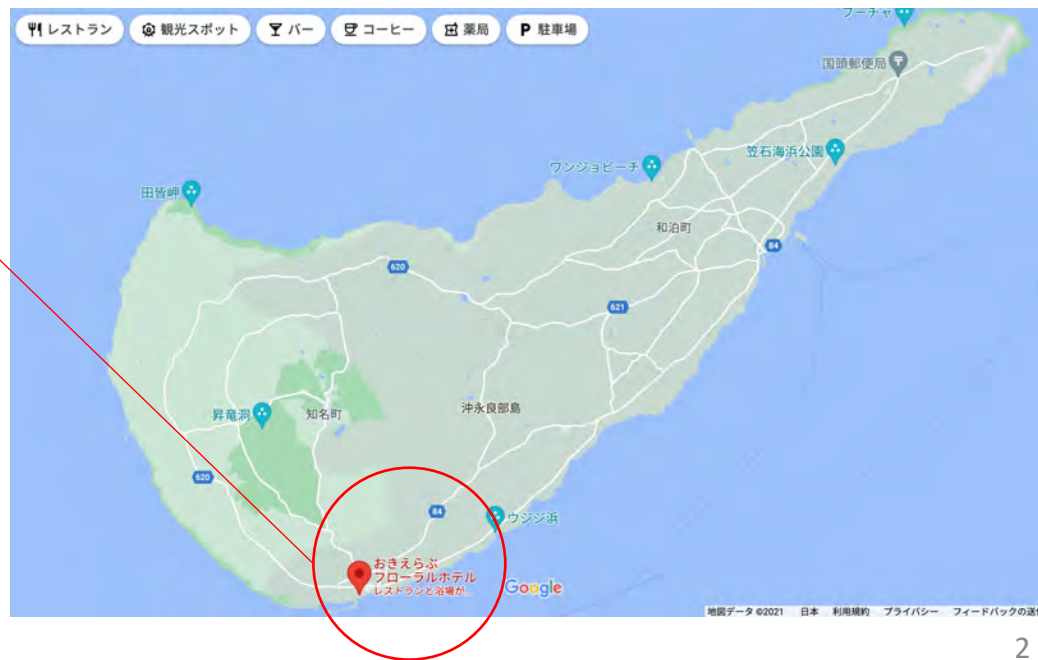
鹿児島県知名町における「子ども第三の居場所」 (B)  
コミュニティモデルの開設と運営 (1年目)  
事業報告

# 1. 「子ども第三の居場所」の開設（改修）

- (1) 開設物件：知名町フローラル館（公共施設）築25年
- (2) 取得形態：行政財産使用許可（賃貸借契約）
- (3) 工事内容：木工事、電気工事、空調設備工事、設備配管工事、弱電工事、サッシ入替工事、サイン工事、備品・家電購入
- (4) 施設名称：entaku（エンタク）
- (5) 面積：総面積約115.2m<sup>2</sup>
- (6) 構造：鉄筋コンクリート造

## <整備対象物件について>

- 整備対象物件：知名町フローラル館地下1階 ラウンジ・休憩室スペース
- 立地：鹿児島県知名町の中心市街地・大字知名に位置し、町営ホテル「おきえらぶフローラルホテル」に隣接
- 現況：令和2年度まで町民が経営する飲食店「はいさい」と賃貸契約を結んでいたが、経営者の高齢化に伴い、退去。現在は居抜き状態で、町の中心施設として活用が求められているが、手を挙げる事業者がない状態。



# 1. 「子ども第三の居場所」の開設（改修）

<改修前写真>



外観



建物入り口



円柱



天井



スペース入り口



左手小上がり①



左手小上がり②



カウンター



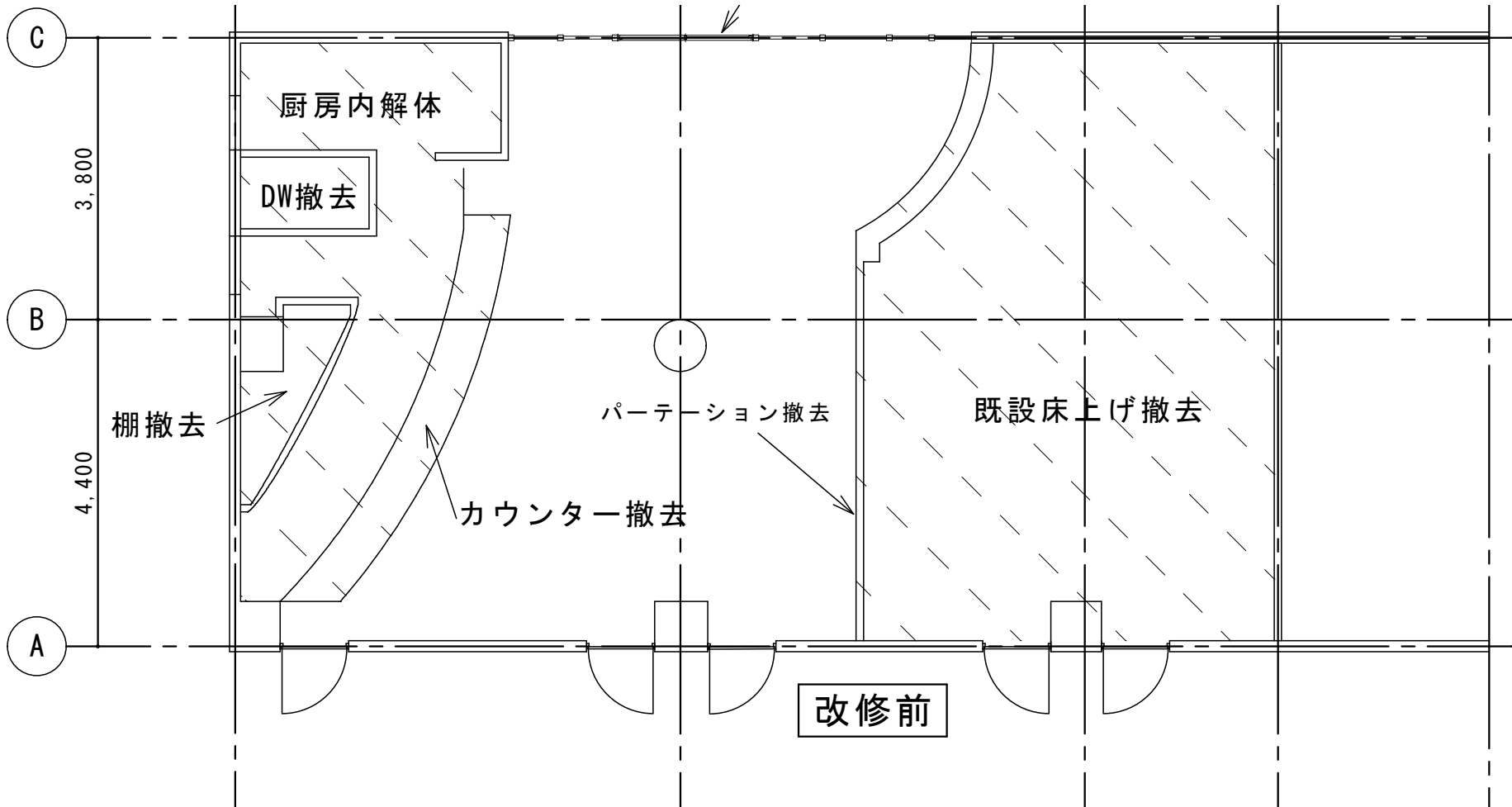
窓側



カウンター内部

# 1. 「子ども第三の居場所」の開設（改修）

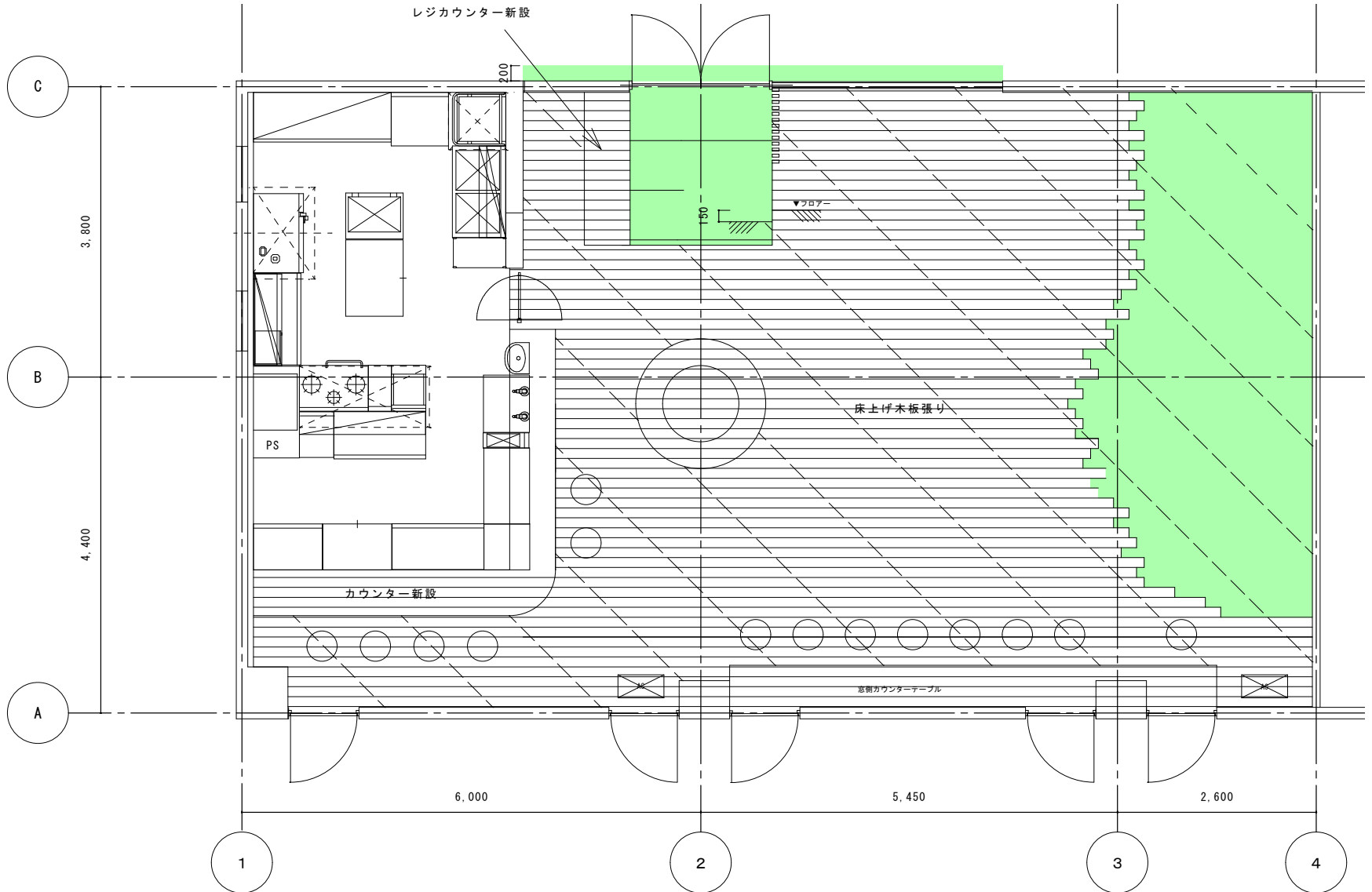
<改修前図面>





# 1. 「子ども第三の居場所」の開設（改修）

<改修後図面>



# 1. 「子ども第三の居場所」の開設（改修）

<改修時イメージパース①>



# 1. 「子ども第三の居場所」の開設（改修）

<改修時イメージパース②>





# 1. 「子ども第三の居場所」の開設（改修）

<改修完了後写真>



入り口前看板



スペース入り口



受付カウンター





# 1. 「子ども第三の居場所」の開設（改修）

<施設名称・ロゴについて>

## 【“場”として実現したいこと】

- ①子どもを中心に島内全世代を対象にしたサードプレイス
- ②老若男女問わず、複数世代の交流拠点
- ③島内、島外をつなぐ“HUB”

## 【機能】

- ・子ども第三の居場所
- ・飲食店（カフェ・バー）
- ・コワーキングスペース
- ・コミュニティスペース

## 【実現したい未来】

『この“場”を起点に、島内外のさまざまな世代がつながり、認め合える、みんなの拠り所になること』

## 【施設名称】

entaku（エンタク）

entaku（エンタク）はカフェ、コワーキング機能を備えたコミュニティスペース。訪れた人たちが”この場”を囲み、たくさんの縁が生まれ、未来をつないでいけるように。子どもを中心に、世代・性別をこえて島内外のさまざまな人が集う、みんなの拠り所を目指します。



entaku

# 1. 「子ども第三の居場所」の開設（開所式）

## <開所式資料>

令和5年1月31日に知名町長をはじめとした関係者28名にご参加いただき、開所式を開催

令和4年1月31日\_entaku（エンタク）開所式参加者名簿

番号	所属	役職	氏名	開所式	懇親会
1	知名町	町長	今井 力夫	1	1
2	知名町	副町長	赤地 邦男	0	0
3	知名町	教育長	田中 幸太郎	1	1
4	知名町	総務課長	成美 保昭	1	1
5	知名町	学校教育課長	甲斐 敬造	1	0
6	知名町	生涯学習課長	窪田 政英	1	0
7	知名町	子育て支援課長	池沢 由美子	1	1
8	知名町	企画振興課長	元栄 吉治	1	1
9	知名町議会	議長	福井 源乃介	1	1
10	日本財団	経営企画広報部長	木田 悟史	1	1
11	日本財団	経営企画広報部子どもサポートチーム	野本 圭介	1	1
12	日本財団	経営企画広報部子どもサポートチーム	吐師 朝美	1	1
13	NPO法人親子ネットワークがじゅまるの家	代表理事	野中 涼子	1	1
14	NPO法人SMAPPY	代表	新納 佳恵	1	1
15	一般社団法人えらぶ手帖	代表理事	釜 優貴美	1	1
16	NPO法人心音	理事	安徳 美智子	1	0
17	社会福祉法人幸福福祉会放課後児童クラブしらゆり	理事長	神崎 千恵子	1	1
18	知名町社会福祉協議会	会長	宗岡 須賀美	1	1
19	おきえらぶフローラル	支配人	中川 陽一	1	0
20	おきえらぶフローラル	副支配人	東 彰男	0	1
21	知名町社会福祉協議会	局長	元栄 恵美子	1	1
22	社会福祉協議会	そら・SORA管理責任者	濱崎 富士美	1	1
23	社会福祉協議会	子ども食堂担当	竹下 真寿美	1	1
24	知名町	子育て支援課	久保 朋寛	1	1
25	知名町	総務課長補佐	岡越 豊	1	0
26	知名町	生涯学習課長補佐	上原 美穂香	1	1
27	知名町	企画振興課長補佐	原田 孝二	1	1
28	知名町	企画振興課係長	坂井 輝喜	1	1
29	知名町	企画振興課主査	先田 和人	1	1
30	知名町	企画振興課主事	奥田 卓斗	1	1

出席者名簿

## 日本財団「子ども第三の居場所」事業 コミュニティモデル entaku(エンタク)開所式

日時：1月31日(火) 15:00～(開場 14:30)  
場所：知名町フローラル館地下1階 entaku

### 本日の式次第

- 1 開場
- 2 開式のご挨拶・施設概要説明  
一般社団法人ツギノバ代表理事 大久保昌宏
- 3 ご挨拶  
知名町長 今井力夫 様  
日本財団 経営企画広報部長 木田悟史 様
- 4 施設内覧・説明
- 5 記念撮影
- 6 閉会



式次第

時間	スケジュール	担当	シナリオ	備考	記録写真撮影
14:30	会場設営・準備	entaku/ツギノバ			
14:30	入場開始				
15:00	開式式スタート	山田	開所式のご挨拶・施設概要説明(9分)	大久保	○
15:05	開式のご挨拶・施設概要説明(9分)	大久保	ご挨拶(知名町長)	今井力夫 様	○
15:10	ご挨拶(知名町長)	今井力夫 様	ご挨拶(日本財団)	木田悟史 様	○
15:15	ご挨拶(日本財団)	木田悟史 様	施設内覧・説明(15分)	大久保	○
15:20	施設内覧・説明(15分)	大久保	記念撮影	山田	○
15:35	記念撮影	山田	閉会		
15:45	閉会	山田			
16:00	懇親会準備開始	entaku/ツギノバ			
16:00	懇親会スタート				
21:00	懇親会終了				

当日進行のための香盤表

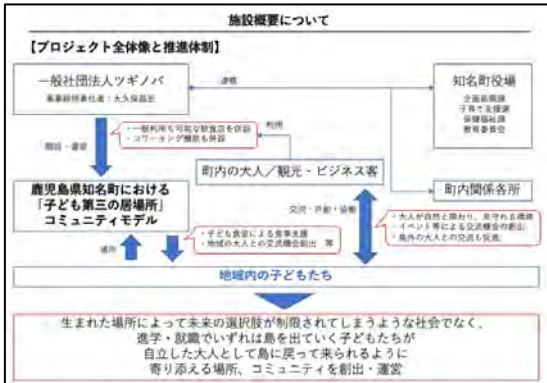
# 1. 「子ども第三の居場所」の開設（開所式）

## <当日投影資料>



本日の式次第	
1	開場
2	開式のご挨拶・施設概要説明 一般社団法人ツギノバ代表理事 大久保昌宏
3	ご挨拶 知名町長 今井力夫様 日本財団 経営企画広報部長 木田悟史様
4	施設内覧・説明
5	記念撮影
6	閉会

施設概要について	
【与件の整理】	
・合計特殊出生率と人口1000人あたりの離婚率の高さ	知名町は合計特殊出生率（2.26）は高い一方、人口1000人あたりの離婚率が高いため、世界における子どもの数は多いのに、一人親世帯である率が高かったり、離婚後、地域内で頼れる人がいないために島を離れてしまうケースが多い。
・離島地域であるが故に限定された選択肢	沖永良部島は島内に高校が1校あるものの、専門的な職種に将来就きたいと考えている子どもや学力が高い・強い等、将来の自己実現のための選択肢を広く持つという目的から、早ければ15歳で島を出る子どもたちもいる。経済的負担も大きく、地域の人口減少や高齢化を進めることにもなり、誰もが地域の中で本土と遜色なく多様な将来を思い描ける環境が求められている。
・若年層世代の減少と高齢化による担い手の不足	上記のように15歳で島を出る子どもたちが多いため、15歳から34歳の若年層世代が減少傾向にあり、高齢化が進む地域内に若年層である職業等の担い手になれなくなるという状況に陥っている。そのため、1人が複数の仕事をこなす必要が生じ、子どもたちを見られる大人が不足、地域一体となって子どもを育て、見守っている体制が保てなくなっている。
・子どもと大人との共創・協働機会の減少	上記のように大人が多忙を極めることで、子どもを見守れる環境が減少してしまい、結果として子どもたちが大人と何かを共に「協働」できる機会が減少してしまっている。15歳というタイミングで島を出る可能性がある子どもたちが大人との共創・協働機会を得られないため、地域内でのつながりが希薄化し、離島後に再び島に戻ってくるという選択肢自体を狭めてしまうことになる。



施設概要について	
【わたしたちが実現したいこと】	この“場”を起点に、島内外のさまざまな世代がつながり、認め合える、みんなの拠り所になること
【この“場”の機能】	① 子どもを中心に島内全世代を対象にした「サードプレイス」 ② 若者男女問わず、複数世代の「交流拠点」 ③ 島内・島外をつなぐ“HUB”
【施設名称について】	entaku（エンタク）はカフェ、コワーキング機能を備えたコミュニティスペース。訪れた人たちが「この場」を囲み、たくさんの縁が生まれ、未来をつないでいけるように、世代・性別をこえて島内外のさまざまな人が集う、みんなの拠り所を目指します。

施設概要について	
◆具体的な活動コンテンツ	
① オープンキッチン	毎月第1回の月曜（17～19時）、土曜の日（11～13時）に飲食店、コワーキングスペースをコラボした状態で無料でもちがが提供できるオープンキッチン。子どもたちが自由に活動できる。おむろ小学生の子も対象に、調理、配膳、情報スタッフともにも行い、みんなで食卓を囲む。
② キャリアイベント	企業等に個人を推薦するサービスを提供しているSABOの連携し、毎月第1、第4の、高校生も対象に企業見学やさまざまな働き方をしている「大人」を聞いて、自分のキャリアプランについて話をしてもらおうイベントを開催。
③ 各種イベント・ワークショップ	子どもだけでなく、地域住民の大人でも参加できるイベントやワークショップも不定期開催予定。



# 1. 「子ども第三の居場所」の開設（開所式）

<当日写真①>



# 1. 「子ども第三の居場所」の開設（開所式）

<当日写真②>





# 2. 「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営



## <運営体制の構築>

開所後、スムーズな運営を行なっていくために、開所までに各種規定・マニュアル・参加者（子ども）向けカルテ等の作成を行った。

### entaku利用規約

<ホームページスペース>  
ホームページスペースをご利用いただくにあたり、本利用規約の遵守をお願いいたします  
※本利用規約は施設規定等と合わせて、随時改訂いたします  
※本利用規約における用語の定義は以下の通りとします  
・運営者：entakuを運営する一般財団法人entaku  
・本施設：entakuの全エリア  
・利用者：entakuを利用し、施設・作業を行う方

1. 運営時間・休業日
  - (1) 本施設の営業時間（以下、「営業時間」という。）は午前9時～午後10時です
  - (2) 本施設の休業日は運営者が定める年末年始・臨時休業日、夏季休暇期間および施設休館日です。また、本施設の臨時・緊急止まり要請の場合は営業する場合があります。休業日・臨時・夏季休暇は何等の返金保証を行いません。利用者さまへお詫言をさせていただきます
2. 利用に関すること
  - (1) 利用者は本施設の利用に際し、第三者に迷惑を及ぼさない範囲で施設・作業を行うことができるものとします。家具類を移動したり、テーブル・椅子等の場所に転倒物を置くこと、長時間占有（占有取り）等を行ってはならず、一度に1人で複数回使用することを禁止します。また、本施設から一時的に退席する場合、転倒物を放置して外出は禁止とします。仮に転倒物を1時間以上放置し、撤去しない場合は退席してはなりません
  - (2) 本施設は不特定多数が利用する場所であり、私物に紛失、盗難、汚染など損害が生じた場合、運営者は一切その責任を負わないものとします
  - (3) 施設内民衆の安全確保から施設の安全、警察の要請、コミュニティスペースとして運営いたします。スタッフや職員、ご来訪者の方にはお断りさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願いします
  - (4) エントアクスにおける紛争事項、個人の所持物は各自で管理してください
  - (5) 本施設の営業時間は14ヶ月間です。両月を過ぎると1ヶ月を過ぎる場合は、処分させていただきます

## ■参加者向けカルテ 参加者・利用者の情報を一元化するために内部資料としてカルテを作成

項目	内容	備考
1. 利用規約	entakuの利用規約	参加者・利用者へ配布
2. カルテ	参加者・利用者への情報一元化	参加者・利用者へ配布
3. マニュアル	施設・作業の手順	参加者・利用者へ配布
4. 規定	施設の利用に関する規定	参加者・利用者へ配布
5. その他	施設に関する各種資料	参加者・利用者へ配布

## ■利用規約 entakuの利用方法等について、 基本ルールを定めた規約を作成

## ■オープンキッチンフロー 毎回どのようなフローを行うかを 事前に資料化し、スタッフ間での 共有を図り、円滑かつミスのない 運営を心掛けた

時間	内容
9:00	開所準備
9:30	開所準備
10:30	開所準備
11:00	開所準備
11:15	開所準備
12:00	開所準備
13:00	開所準備
14:00	開所準備
14:30	開所準備

## ■オープンキッチン進行表 当日の動きなどを毎回まとめて スタッフ間にて共有

時間	内容
9:00	開所準備
9:30	開所準備
10:30	開所準備
11:00	開所準備
11:15	開所準備
12:00	開所準備
13:00	開所準備
14:00	開所準備
14:30	開所準備

## ■反省点・改善 点シート 毎回のオープン キッチン終了後 に反省点・改善 点の振り返りを 実施するための シートを作成・ 運用を行った



## 2. 「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

### <オープンキッチン（子ども食堂機能）の実施>

entakuでは離島地域という限定されたコミュニティで暮らす子どもたち・親たちに配慮し、「子ども食堂」という呼称をやめ、オープンキッチンという呼び方で統一。開所後に速やかに開催を行った。



## 2. 「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

### <オープンキッチンメニュー一例>

小学校・中学校等の給食の献立をチェックしながら、類似のメニューにならないように、栄養バランスにも注意しつつ、子どもたちが参加したい、食べたいと思えるメニューづくりを心掛けた。





## 2. 「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

### <ワークショップ・イベントの開催>

施設を利用する子どもたちが、沖永良部島という離島の環境・地理的特性に縛られず、将来の選択肢を幅広く持ち、自らの夢を描き実現できるように、様々な属性の人と関わり、社会とのつながりを保持し、自ら考え、実践できる「生き抜く力」を育むために、地域住民との交流機会創出や探求型学習プログラム、ワークショップ等のイベントを開催。



### <アップサイクルワークショップ>

entakuの改修工事で発生した石膏ボードの廃材を再利用してタイルを作り、開所前のentakuの受付カウンター壁面に貼る作業をアップサイクルワークショップとして実施。  
アップサイクルワークショップ以外にも、開所後は音楽をみんなで楽しむ会を2回（1月・3月）、3月で島を離れる高校生たちと島を出た後の島との関わり方を考えるワークショップ（3月）等を開催。



### <町内イベントへの参加・出展>

島内・町内の子どもたちや保護者にentakuの趣旨等をより広く理解してもらうために、町内イベント等に積極的に参加・出展を行い、開所前から拠点施設の周知を図った。

### <他地域の子どもの受け入れ>

沖永良部島に合宿等で来島する他地域の中高校生・高校生の朝食等の提供受け入れを実施。  
島内・町内飲食店では早朝対応などが難しい状況に対して、オープンキッチンのノウハウに基づいて、受け入れを実施。  
他地域も含めて、沖永良部島に関わる子どもの居場所として機能することを心がけている。